

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
座間北部地区

平成24年12月

神奈川県座間市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	道路の整備状況満足度	%	11	16	26	確定 見込み ●	○	あり なし	30	H24年9月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	人口急増による都市基盤整備の促進のため、狭隘道路の改善のための拡幅改良など、地区内の道路事業の進捗により、道路の整備状況の満足度が向上し、円滑な地域交通が確保された。
指標2	防災対策満足度	%	12	18	12	確定 見込み ●	△	あり なし ●	5	H24年9月	×	防災機能の向上により、防災対策満足度が向上したが、完成後のイメージによる期待値が大きかったのとPR不足によるものと推測される。 <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input checked="" type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	避難路改良事業の実施、避難場所となる小中学校の屋内運動場の耐震工事の完了、耐震性貯水槽、防災無線、防災備蓄倉庫の設置といった地区内の防災機能の向上により、防災対策満足度が向上したが、目標には達しなかった。しかし、充実した地区内防災機能が確保された。
指標3	道路の安全、快適性の向上度	%	24	29	24	確定 見込み ●	△	あり なし ●	22	H24年9月	×	防災機能の向上により、防災対策満足度は向上したが、完成後のイメージによる期待値が大きかったと推測される。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	地区内の道路事業の進捗により、狭隘道路の拡幅改良や歩道のバリアフリー化などが実施された結果、防災機能の向上により、防災対策満足度が向上したが、目標には達しなかった。しかし、歩行者、車利用者の安全で快適な交通環境が確保できた。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	交通事故件数	件	289	/	233	確定 見込み ●	/	/	243	H24年11月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	道路事業の進捗により、道路や交差点改良、歩道改良などが実施された結果、地区内交通環境の安全性が確保された。
その他の数値指標2	道路の快適性の向上度	%	-	/	58.3	確定 見込み ●	/	/	57.38	H24年9月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	地区内生活道路の歩道や交差点の改良、狭隘道路の拡幅改良に加え、バリアフリー化による歩道改善工事を確実に実施したことで、道路の快適性が向上し、歩行者、車利用者の快適性が向上した。
その他の数値指標3	公共交通の利便性の向上度	%	-	/	57.1	確定 見込み ●	/	/	66.67	H24年9月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	地区内でコミュニティバスの運行実験を行い、ルート見直し等を行った結果、公共交通の利便性が向上し、路線バスを補完する身近な公共交通が確保された。

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標4	市民一人当たりの避難所面積	m ² /人	0.08	0.15	確定 見込み ●			0.15	H24年9月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	避難場所となる小中学校の屋内運動場の耐震工事の完了により、市民一人当たりの避難所面積が増加し、耐震性能を保持した避難所が増加した。	
その他の数値指標5	災害への備えの向上度	%	—	40.6	確定 見込み ●			37.1	H24年9月		<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	避難路改良事業の実施、避難場所となる小中学校の屋内運動場の耐震工事の完了、耐震性貯水槽、防災無線、防災備蓄倉庫の設置を実施した結果、充実した地区内の防災機能が確保された。	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)	実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項	
・成果を持続させるために行う方策	防災関連施設機能の維持	災害時において、緊急避難路や避難所としての機能を最大限に発揮するため、日常の点検及び維持管理に努めた。	避難場所となる小中学校の屋内運動場の耐震工事の完了、耐震性貯水槽、防災無線、防災備蓄倉庫の設置を実施した結果、充実した地区内の防災機能が確保された。	点検・維持管理を引き続き継続する。
	交通の安全、快適性の維持	災害時において、緊急避難路や避難所としての機能を最大限に発揮するため、日常の点検及び維持管理に努めた。	歩道や交差点の改良、狭隘道路の拡幅改良に加え、バリアフリー化による歩道改善工事を確実に実施したことで、道路の快適性が向上し、歩行者、車利用者の快適性が向上した。	点検・管理を行い、快適性の向上を維持していく。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	まちの防災機能の向上	避難場所としての機能の維持及び安全性の対応を図り、安心・安全なまちづくりの更なる向上のため、防災施設の整備を推進した。	避難場所となる小中学校の屋内運動場の耐震工事の完了により、市民一人当たりの避難所面積が増加し、耐震性能を保持した避難所が増加した。	点検・維持管理を行い、安心・安全なまちづくりの向上を図る。
	交通の安全、快適性の維持向上	歩行者、車利用者の安全性、快適性の維持向上を図るため、市民意向を踏まえた生活道路を中心とした整備を推進した。	歩道や交差点の改良、狭隘道路の拡幅改良に加え、バリアフリー化による歩道改善工事を確実に実施したことで、道路の快適性が向上し、歩行者、車利用者の快適性が向上した。	市民意向に合致した道路整備を進める。
	相武台駅前周辺における環境、交通網の整備	既存の自治組織など市民の意向を踏まえた、駅前周辺の環境、交通網の整備を推進する。	コミュニティバスのルート見直し等を行った結果、公共交通の利便性が向上し、路線バスを補完する身近な公共交通が確保された。	利便性のさらなる向上を目指し、ルート見直し等検討していく。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
防災対策についての周知	防災訓練、防災講話等において、地区内防災機能の紹介を行い、防災対策についての理解を深めてもらう。	平成25～	防災訓練、防災講話への積極的参加の推進。

都市再生整備計画(精算報告)

ざまほくぶ
座間北部地区

かながわ ざま
神奈川県 座間市

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	座間市	地区名	座間北部地区	面積	390.7 ha
計画期間	平成 16 年度	～	平成 23 年度	交付期間	平成 19 年度	～	平成 23 年度

目標
 大目標: 便利で安心して暮らせるやすらぎのあるまちづくり
 目標1: 都市基盤の整備により、安全性、快適性の向上、円滑な地域交通の確保、公共交通の確保を図ります。
 目標2: 地域防災施設の整備を進めるなど、防災対策の充実を図ります。

目標設定の根拠
 まちづくりの経緯及び現況
 ・当該地区は、座間市の北部に位置し、相模野台地の一角から座間丘陵にかけた地区で、相模が丘地域、相武台地域、緑ヶ丘地域と本市で最も人口が集中している地区となっています。
 ・当該地区には、座間市地域防災計画により、地震災害発生時に備え広域避難場所が6箇所(うち1箇所は隣接する市外)、避難所が7箇所指定されており、物資、資機材、要員等の緊急輸送のための県指定の緊急輸送路である県道51号線の他に市指定の緊急輸送路が10路線指定されています。
 ・相模が丘地域については、小田急小田原線の小田急相模原駅に隣接し、交通の利便性が高いことから、昭和40年代以降急速に住宅、工場等の開発が進み、その結果として人口急増を招き、本市の平均人口密度の2倍から3倍弱の人口集中地域となっています。
 課題
 ・災害発生時の避難所としての小中学校の整備を喫緊の課題として進める必要があります。
 ・地震発生時において、救援活動の根幹をなす緊急輸送路等が、その機能を発揮できるよう整備、点検しておく必要があります。
 ・相模が丘地域では、人口急増により都市基盤整備が遅れ、狭あい道路が非常に多く、安全面や利便性の面で課題となっています。
 ・相武台地域では、人と車が集積する相武台前駅周辺地域の環境整備、交通網の整備等が課題となっています。
 将来ビジョン(中長期)
 ・相模が丘地域では、「便利でやすらぎのあるまち」を目指しています。
 ・相武台地域では、「相武台の地名の由来を大切に、新しい時代に向かって、みんなが安心して楽しく日々を送れる住みよいまち」を目指しています。
 ・緑ヶ丘地域では、「誰もが健康で、やすらぎとるおい、ふれあいのある夢のまち」を目指しています。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値
				基準年度	目標年度
道路の整備状況満足度	%	市民意識調査により、道路の整備状況について「満足」「まあ満足」と答えた市民の割合	交通の安全性、歩行者の快適性の向上を、当該地区の市民意識調査での道路の整備状況について「満足」「まあ満足」と答えた市民の割合を1.5倍増加させることを目標とする。	10.7	平成16年度 16 平成23年度
防災対策満足度	%	市民意識調査により、地震や火災に対する安全性について「満足」「まあ満足」と答えた市民の割合	防災対策の充実を、当該地区の市民意識調査での地震や火災に対する安全性について「満足」「まあ満足」と答えた市民の割合を1.5倍増加させることを目標とする。	11.8	平成16年度 18 平成23年度
道路の安全、快適性の向上度	%	まちづくりのための市民アンケートによる「安全、快適な道路になってきている」と感じる市民の割合	交通の安全性、歩行者の快適性の向上を、当該地区のまちづくりのための市民アンケート調査での「安全、快適な道路になってきている」と感じる市民の割合を5ポイント増加させることを目標とする。	23.5	平成18年度 28.5 平成23年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(都市基盤の整備促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の交通の安全性、快適性を高めるため、また災害時の安全な避難経路の確保や物資、資機材、要員等の緊急輸送に備え、生活道路の拡幅改良工事、交差点改良工事、歩道改善工事、バリアフリー化歩道改善工事を実施する。 ・市役所までのアクセス不便地域を解消し、市民の社会参加を活性化するため、コミュニティバスの試験運行を実施する。 	<p>市道7号線道路改良事業、市道50号線道路改良事業、市道8号線道路改良事業、市道相模が丘129号線道路改良事業(小規模交差点改良)、市道6号線道路改良事業(歩道改良)、市道30号線道路改良事業(バリアフリー化歩道改善)、市道17号線道路改良事業(歩道改善)、市道相模が丘83号線道路事業、コミュニティバス運行事業</p>
<p>整備方針2(地域防災対策の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域防災施設である避難所としての小中学校の屋内運動場について、耐震化工事を実施し、避難所機能の確保を図る。 ・地震防災緊急事業対策として耐震性貯水槽を設置し、火災発生時に迅速に対応することで、市民の生命を守り、被害を最小限に留めるよう図る。 ・地震発生時において、被災した市民の救出活動用及び避難者が発生した際に使用する資機材の保管場所を整備し、有事に備えた体制を整備する。 	<p>相模が丘小学校屋内運動場耐震化事業、相模中学校屋内運動場耐震化事業、相模野小学校環境整備事業、相模が丘小学校環境整備事業、相模中学校環境整備事業 耐震性貯水槽整備事業、防災備蓄倉庫整備事業、防災無線(MCA無線)整備事業</p>
<p>その他</p> <p>○事業終了後の継続的なまちづくり</p> <p>相模が丘地域は、停滞する商店街の活性化、防災性能向上の観点から、地権者からの共同建替えを進め、平成17年度より一部地域について実施していますが、引き続き近隣周辺地域についても同様に促進する予定です。</p> <p>相武台地域においては、小田急相武台前駅周辺の交通や道路に関する問題などについて、話し合いやまち歩きなどを行い、行政・警察等への提案づくりを目的として、自治会、商店会、老人クラブ連合会、社会福祉協議会、鉄道事業者、バス事業者、警察署、学校、県、市などが協働して平成16年1月に「相武台前駅周辺交通まちづくり研究会」を結成しています。現在では、その提案に対する進捗状況について協議するとともに、市道5号線の整備に特化した作業部会を設置するなど、積極的、活発なまちづくりのための活動をしており、今後においても当該地域の継続的なまちづくりに貢献していく予定です。</p> <p>○街並み形成の誘導を図るための方策について</p> <p>平成17年度に景観地区についての庁内プロジェクトチームによる検討を実施し、平成18年度には外部委員による景観計画検討会議を発足し、景観計画及び景観条例の骨子を検討し、条例化を目指し準備を進めています。</p> <p>○交付期間中の計画の管理について</p>	

